

今回は博士課程後期の論文が2編と報告が1編収録されている。博士課程後期の研究はいずれも博士課程の学生が多くの時間を費やして行われた研究である。しかも国内で唯一の鍼灸学大学院であり、その鍼灸学に関する研究が社会に与える影響は小さなものではないと考えられる。

今回の博士論文は、鍼の刺入が筋血流に与える影響と、鍼の侵入に関する安全性のよりどころとなる生体の体表からの深さを調べたものである。鍼の生体に与える影響は十分に解明されていない部分があり、筋肉に与える影響もその一つである。以前から鍼の刺入が血流を増加する報告があるが、そのメカニズムは十分に解明されておらず、この論文ではその点を明らかにしようとしている。こうした研究の積み重ねにより鍼の本来の効果が実証されることが期待される。

一方、鍼の刺入による事故は世界で報告されており、これらを踏まえた上で安全性の基準を早急に作ることが求められている。今回はMRIを用いて複数の体型の人断層画像を用いて筋肉の厚さを計測し、現在鍼治療に利用されている安全基準の問題点を浮き彫りにした点で非常に重要な論文と思われる。いずれも今後の継続的な研究が期待される。

また、報告に分類されているアイメイクの話については、日常的に利用している化粧品などに関する取りまとめであるが、このような日常的に接する物質の問題点を浮き彫りにする姿勢は大変重要である。今後それらの問題点に対する科学的根拠が示される研究も行われることを期待したい。

大学誌としてこれまで多くの論文が掲載されてきましたが、今後も先生方の研究活動の一端を広く紹介する雑誌として、可能な限り新しく正確な情報を提供できるように編集委員会一同努力していきたいと考えている。

明治国際医療大学編集委員会
梅田 雅宏